

# 早稲田社会学会ニュース 第47号

2016年4月28日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL: <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

## 今回のニュースの内容

1. 第68回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告および『社会学年誌』第58号投稿の募集
4. 2016年度研究助成の募集
5. 第38回研究例会開催のお知らせ
6. 入退会者のお知らせ
7. 学会費納入のお願い

### 1. 第68回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会が、2016年7月9日(土)に、早稲田大学文学学術院(戸山キャンパス33号館3階第1会議室)において開催されます。シンポジウムのテーマは「分析単位としてのコミュニティ——ソーシャル・キャピタル論から問う」です。詳細につきましては次項「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、学会HP上にてお知らせする予定です。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、第2頁をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

### 2. 本年度大会シンポジウムについて

テーマ: 分析単位としてのコミュニティ——ソーシャル・キャピタル論から問う

報告者: 稲葉陽二(日本大学)

「ソーシャル・キャピタルとQOL——全国郵送法調査からの知見」

高木大資(東京大学大学院)

「ソーシャル・キャピタル研究における“場所”と“空間”をどのように考えるか」

埴淵知哉(中京大学)

「ソーシャル・キャピタルをめぐる地理的スケールと歴史的文脈の問題」

討論者: 玉野和志(首都大学東京)・小藪明生(早稲田大学)

司会者: 田所 承己(帝京大学)・麦倉泰子(関東学院大学)

### <趣旨説明>

ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）は健康、災害対応、灌漑施設等の公共財の運営、孤立・自殺対策等の市場メカニズムが有効に機能しない分野、貧困、生活満足度などのQOLなど、さまざまな領域でその重要性が実証されつつある。一方で、その概念規定があいまいである、理論やメカニズムの点で不明確であるなどの問題も繰り返し提起されている。

ソーシャル・キャピタルの概念をあいまいにしている根本的な原因の一つであり、「ソーシャル・キャピタルとは何か？」を考えようとする際に避けて通れない重要なテーマが、ソーシャル・キャピタルを計測・分析する際にどのような集団や社会を単位とするべきかという範囲・領域性・分析単位の問題である。これまでの先行研究ではソーシャル・キャピタル概念の多様な側面、および健康など個別分野の目標変数との関連性の実証に焦点が当てられてきた。一方で調査・実証研究が実施されている地域や空間（文脈）の分析はややおざなりにされていた。この問題を突き詰めると、ソーシャル・キャピタルがどのような効果や影響を持っているのかのみならず、ソーシャル・キャピタルをどのようなものとするのかそれ自体が、どのような集計単位や文脈（例えば、国、県、市町村、旧村、町丁目、学校区、集団の種類など）をとるかによって大きく左右されてしまうことも考えられる。

これは、計量地理学の分野でMAUP（可変地域単位問題）と呼ばれるなど、周辺分野の多くでも古くて新しい課題となっている。また、政策的にも、「コミュニティの範囲」をどのように設定するのかで行うべき施策も変化することもありうる。また、社会学分野において自明・暗黙に用いられがちであった「社会」や「集団」といったものの「範囲」についても問題を投げかけるものである。

本シンポジウムでは、社会学周辺諸分野のソーシャル・キャピタル論に関わってきた研究者が、分析単位となる社会集団や領域をどうとらえるべきなのかという問題に対し、どのように向き合い、理論・調査方法などの面でどのような工夫・主張をしているのかについて多面的に議論を行い、この問題に対する現時点での到達点と課題を浮き彫りにしてみたい。また議論の中から、「コミュニティ」をどうとらえるのかといった社会的・現代的な問題についても示唆を得られればと考える。

（早稲田大学 小藪明生）

### 3. 大会一般報告および『社会学年誌』第58号投稿の募集

報告および投稿を申し込む方は、以下の項目をA4の用紙1枚に記入し、事務局宛て郵送またはE-mailにてお送りください。報告と投稿の両方に申し込む場合には、それぞれ別の用紙で申し込みをお願いいたします。

大会一般報告、または『社会学年誌』第58号投稿、のいずれかを明記してください

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

大会報告：申し込み締め切りは、5月15日（消印有効）です。

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日（消印有効）です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日（消印有効、郵送のみ受付）です。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退なさる場合は、8月15日ま

でにその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号（第 57 号）をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で報告もしくは投稿をご希望の方は、上記の申込書とあわせて入会申込書をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会 HP の「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

#### 4. 2016 年度研究助成の募集

これまでに当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重して、次の要項により会員各位の研究活動を助成いたします。

助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動  
助成額： 1 件 30 万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までご連絡ください。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5 月 15 日（消印有効、郵送のみ受付）です。なお、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して 2 年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告（または学会誌投稿）により、その成果を報告していただくようお願いいたします。また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局までお問い合わせください。

#### 5. 第 38 回研究例会開催のお知らせ

第 38 回（2016 年度第 1 回）研究例会が下記の要領で開催されます。多数のご参加をお待ちしております（以下敬称略）。

テーマ：社会学におけるソーシャル・キャピタル／ソーシャル・ネットワーク概念の再検討

日時：2016 年 5 月 21 日（土）14 時～16 時 40 分

会場：早稲田大学文学部（戸山キャンパス）33 号館 6 階第 11 会議室

報告者：原田 謙（実践女子大学）、加藤篤志（茨城大学）

司会者：田所承己（帝京大学）・麦倉泰子（関東学院大学）

第一報告：原田 謙（実践女子大学）

「都市社会学とソーシャル・キャピタル研究の交差——地域の文脈効果を再考する」

本報告の目的は、「ソーシャル・ネットワーク研究とソーシャル・キャピタル研究はなにが違うのか」という論点を、都市社会学における理論／実証研究の系譜に基づいて検討することである。第一に、ソーシャル・キャピタルと健康に関する研究において、地域の文脈効果に着目する視点は、「都市社会学の源流」であるシカゴ学派の生態学的アプローチに遡ることができる。第二に、日本の都市社会学では、この理論的系譜から親族・隣人・友人といった「ソーシャル・ネットワークに対する都市効果」の解明が積み重ねられていった。第三に、地域環境を定量的に評価する「エコメトリクス」の重要性を主張する Robert J. Sampson の議論を整理し、報告者らによる 30 自治体調査データを用いたマルチレベル分析の結果も紹介しながら、地域の文脈効果（つまり個人レベルではなく地域レベルのソーシャル・キャピタル）に着目する意義を強調したい。

第二報告：加藤篤志(茨城大学)

『ネットワーク』の意味を問い直す——『若者の友人関係』を手がかりに(仮)

若者を対象として2012年に実施された社会調査のデータから、主に友人関係に関する調査項目を用いて、若者自身にとって「友人関係」がどのようなものとして意識されているかを考察し、それを手がかりに、友人関係のネットワークが持つ意味について検討する。現代社会における流動性や選択性の増大に伴って、友人関係においてもまたいくつかの変化や多様性が見られることが指摘されている。友人関係に対する若者自身の意識についても例外ではなく、その変化や多様性は、「友人」という概念についての再検討が必要な状況をもたらしているように思われる。友人関係のような親密な人間関係のネットワークが持つ意味や機能については、これまでも様々な議論が展開されてきたが、このような友人関係の状況について考察することによって、従来の議論との接続がどこまで可能かを探ることができればと考えている。

## 6. 入退会者のお知らせ

理事会において次の方の入会が承認されました。(以下敬称略)

2015年12月5日理事会 大坪真利子(早稲田大学文学研究科)

理事会において次の方の退会が承認されました。(以下敬称略)

2015年12月5日理事会 井上 圭二、木下 英司

## 7. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を、同封の「郵便振替払込書」にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます(今年度分をすでに納入されている方および名誉会員の方宛てには、払込書は同封しておりません)。

年会費： 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号： 00100-3-38020

加入者名： 早稲田社会学会

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします！

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上